

糸

岡村麻衣

冷たく無機質な地面の上で
もう一つの地面を置いて

誕生の儀式が始まる

さらさらとした常温の雪を熱にさらすと
瞬く間に雪は解け、粘りと熱を持つ

故意に重力に逆らって、蜘蛛の糸は伸びる。

宙に浮かぶと抱いていたぬくもりは飛び立ち

そこに残るのは、自分の軌跡を描いたままの雲の糸。

冷たく硬くなったその化学、芸術の結晶を

私たちは無慈悲にも手折り

完べきな甘い土色の大地に横たえるのだ

そしてそれをみんなは

「器用の賜物」と簡潔にたたえたあと

すべては酸性の中にあっけなく沈んでいく